

特別演習実施報告書

平成〇〇年〇〇月〇〇日

教員氏名 連大 太郎 （配属大学：岩手大学）

学 生 氏 名	弘前 花子 （ 弘前 大学）
指導内容および所見（指導の実施時期、回数などがわかるように具体的に書いてください）： <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"><p>この特別演習実施報告書は、第一副指導教員および第二副指導教員が、毎年、学生指導した記録として主指導教員に提出していただくものです。</p><p>副指導教員は、当該年度に学生指導した内容と、学生から提出されたレポート等の評価を含む所見を記入し、主指導教員に提出してください。</p><p>主指導教員は、2人の副指導教員の所見をみて、当該学生の特別演習の成績評価を行い、連大事務室まで報告してください。その際、2人の副指導教員から提出されたこの特別演習実施報告書を併せて提出してください。</p></div> <p>学生（弘前花子）には、5月と11月の2回、弘前大学において2単位分に相当する時間数以上の面接、研究指導を行った。</p> <p>5月には、研究構想について、とりわけ研究の目的、対象、方法、予想される結果等について、現時点での学生の認識について質疑応答を行った。その結果、研究の目的や対象については、具体的なイメージを持っているが、調査データの収集法や分析方法については、まだ明確ではなかったため、アンケート調査の質問項目の作成方法と実施上の留意点を中心に指導した。</p> <p>11月の面接に至るまでに、メールを利用して学生からの質問に答えたり、主として既存研究や調査方法論の文献紹介する等、数回にわたる指導を行った。</p> <p>11月の面接では、再度、研究構想全体と5月以降の研究経過および成果について報告してもらい、質疑応答を行った。その結果、研究方法についても的確なイメージを持って調査を実施し、ほぼ予定どおりのデータを得て分析を行いつつあることを確認した。</p> <p>全体として研究は順調に進行していると思われるが、今後はデータの集計結果の解釈について、既存研究の成果も踏まえながら的確に行えるように指導していく必要があると思われる。</p>	